

アスリート委員会名簿

役 職	氏 名	競 技
委員長	高橋 尚子	陸上競技
副委員長	河合 純一	水泳
委員	穴井 隆将	柔道
	不老 安正	クレー射撃
	及川 晋平	車椅子バスケットボール
	池田 信太郎	バドミントン
	大畑 大介	ラグビー
	小宮 正江	ゴールボール
	齋藤 里香	ウエイトリフティング
	菅原 智恵子	フェンシング
	杉山 愛	テニス
	関根 明子	トライアスロン
	高倉 麻子	サッカー
	田口 亜希	射撃
	土田 和歌子	陸上競技
	萩原 智子	水泳
	萩原 美樹子	バスケットボール
	廣瀬 隆喜	ボッチャ
	松永 共広	レスリング
	三浦 恵子	ホッケー
	米田 功	体操/体操



東京2020大会の準備状況について

2016年の主なトピックス

4月	大会エンブレムの決定
7月	アクション&レガシープラン2016の公表
8月	追加種目の決定
8月～9月	リオ2016大会 東京2020ジャパンハウス フラッグハンドオーバーセレモニー
10月	リオ オリンピック・パラリンピック日本選手団合同パレード 東京2020参画プログラムスタート
11月～12月	4者協議開催
12月	東京2020大会にむけたボランティア戦略の策定

リオ2016大会における組織委員会の取組

Tokyo 2020 JAPAN HOUSE(主催:東京2020組織委員会、東京都、JOC、JPC)

①ALL JAPANによる日本・東京のPR

組織委員会、東京都、各府省庁、パートナー各社、地方自治体等による日本・東京のPR



②日本選手団記者会見

メダリスト記者会見、日本選手団応援等



③ホスピタリティ及び事務室機能

来賓のおもてなし、レセプション実施



リオ2016大会における組織委員会の取組

オリンピック／パラリンピックの閉会式にて、オリンピック旗／パラリンピック旗を引き継ぐ
フラッグハンドオーバーセレモニーを実施

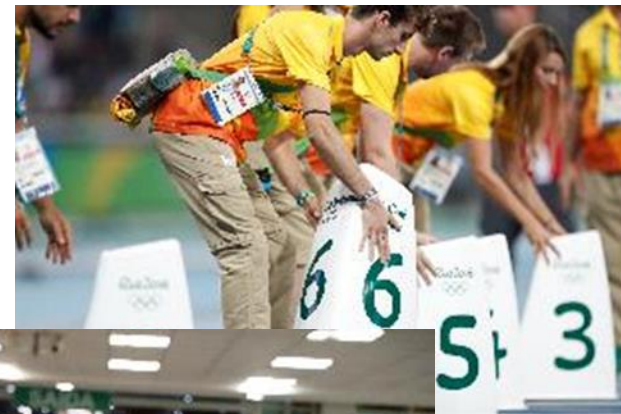


ボランティア戦略

「東京2020大会に向けたボランティア戦略」は、東京2020大会におけるボランティアの募集や研修などの運営のあり方、参加者の裾野拡大等について基本的な考え方である。

【ボランティア戦略概要】

- ◆ 関係自治体・スポンサー等との連携
- ◆ 障がい者、生徒等多様な参加者の活動促進
- ◆ 応募条件や応募方法
- ◆ 東京都と東京2020での共通研修の実施
- ◆ 参加機運の醸成・裾野拡大 等



2018年夏頃の募集開始を目指す

2017年の主なトピックス

- ◆大会マスコット選考の検討開始
- ◆聖火リレーの検討開始
- ◆開・閉会式に関する検討開始
- ◆「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」開始

大会マスコット選考の検討開始

大会マスコットの選考方法を検討するためのマスコット選考検討会議を設置。
選考方法について議論を行い、具体的なマスコットの選考を進めていく。



聖火リレーの検討開始

関係団体や外部有識者で構成する聖火リレー検討委員会を設置。

聖火リレーのコンセプトやルート策定における基本方針等の検討を開始。

聖火リレー検討委員会

- ◆ 東京2020組織委員会
- ◆ 東京都
- ◆ 外部有識者
- ◆ 全国知事会
- ◆ 内閣官房
- ◆ 文部科学省
- ◆ JOC
- ◆ JPC



2017年夏頃のコンセプト策定（IOC提出）を目指して、検討を行う。

開・閉会式の検討開始

開・閉会式での演出に関する基本的な方針の検討や、
総合監督など演出に関わる者の選定などを行う式典委員会を設立。

式典委員会の設立【2017年春頃】

基本方針の検討【2017年春頃～2017年末頃】

制作体制の決定

制作・準備

大会本番



都市鉱山から作る！みんなのメダルプロジェクト

都市鉱山から入賞メダルを制作するプロジェクトを推進。

大会エンゲージメント、持続可能性への配慮、イノベーティブな大会の象徴のひとつとして取り組んでいく。

東京2020組織委員会

東京都

環境省

連携

【多くの国民参画】 【確実な調達】 【費用の低減】 【高いリサイクル率】 を目指しながら、
史上初めての都市鉱山を回収したメダル制作を行う。

2017年4月からの回収開始を予定。

みんなの輝き、つなげていこう。
Unity in Diversity



ワールドワイドオリンピックパートナー



東京2020ゴールドパートナー





アスリート委員会の活動報告

アスリート・ファーストの大会を実現するために

アスリート委員会が、これまで進めてきた、大会エンゲージメント、アクション&レガシー、アスリート・ファーストの大会実現に向けた様々な取組みが、より機能的に行えるように、委員会の下に2つのワーキンググループ（WG）を設置し、活動を開始（2016年7月～）

アスリート委員会

WG 1

大会エンゲージメント／アクション&レガシーの推進



東京2020大会に向けたエンゲージメント推進やレガシー創出に寄与する取組や意見交換を行う

WG 2

大会準備運営／大会サービスへの示唆



東京2020大会におけるアスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスに関与し、支援を行う

1. WG 1の活動について

<所管事項>

- アクション&レガシープラン（スポーツ・健康分野）の推進
- 大会エンゲージメントの推進

ミッション：大会エンゲージメントとレガシー創出に寄与するアクションを推進するため、委員会での議論等（アスリートの視点）を、今後の取組に活かす。

<主な取組内容>

① 大会エンゲージメント活動への協力

リオ大会期間中のライブサイトや、フラッグツアーなど、東京2020大会へ向けた主要なエンゲージメント活動（イベント等）へアスリート委員が協力

② 今後の取組に向けた意見交換等

アスリート委員とともに、大会スポンサー、ステークホルダー等の関係者が、大会の盛り上げやレガシー創出につながるアクションをオールジャパンで推進するため、具体的テーマのもとに意見交換し、今後の取組につなげる。



アスリートが大会エンゲージメントを推進するアクションをリード

WG 1 の取組状況 – 今後の取組に向けた意見交換等 –

アスリート委員とパートナー企業等関係団体との意見交換

- アスリート委員会からこれまで提案のあったレガシー創出や大会機運醸成の「アクション・アイデア」について、以前からスポーツ健康分野でやり取りのあるパートナー企業数社や関係ステークホルダーから、それぞれ取組をご紹介いただき、今後のアイデア具現化を視野に意見交換を行った。
- 今後も引き続き意見交換を行い、スポーツ関連団体やパートナーを含むステークホルダーと連携して、アイデアの具現化を目指していく。

実施日程：2016年12月22日（木）

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員
齋藤委員、菅原委員、田口委員

関係団体等：パートナー企業数社、JOC、JPC、日体協
JSC、スポーツ庁、東京都



WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京 2020 ライブサイト in 2016 –リオから東京へ–

- リオ2016大会のオリンピック・パラリンピック期間において、本委員会と東京都は、JOC・JPC等と協力して、ライブサイトを都内2箇所、東北3県で開催した。期間中、合計35万人の来場者があった。
- このライブサイトに、アスリート委員が協力し、競技放送の解説等を行った。

実施日程：2016年8月6日（土）～9月19日（月）

実施場所：東京都、岩手県、宮城県、福島県

参加したアスリート委員

：河合 純一 副委員長、田口 亜希 委員、
萩原 智子 委員、齋藤 里香 委員*

*齋藤委員はライブサイトが台風により中止となりご出演なし



WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

「みやぎアスリート2020」 指定書交付式

- 「TOKYO 2020公認プログラム（復興）」として認証された宮城県「東京オリンピック・パラリンピック強化支援対策事業」の指定書交付式が宮城県庁で開催された。
- 地元宮城県出身の菅原委員から村井宮城県知事へ、東京2020参画プログラムの公認マークを贈呈した。
- 菅原委員から、同事業により「みやぎアスリート2020」として指定された選手へ向けて、激励のメッセージを送った。

実施日時：2016年12月1日（木）

実施場所：宮城県庁

参加したアスリート委員：菅原 智恵子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー <被災 3 県>

- オリンピック・パラリンピックフラッグが東日本大震災の被災地の中で初めて福島県に到着し、それぞれ福島県知事に手渡された。
- 地元福島県出身のアスリート委員である萩原美樹子氏がステージに登壇し、東京2020大会への期待感などを語ったほか、地域の子どもたちと一緒にフラッグを振り、交流を図った。

実施日時：2016年11月2日（水）

実施場所：福島県庁前広場

参加したアスリート委員：萩原 美樹子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜被災3県＞

- オリンピック・パラリンピックフラッグが東日本大震災の被災地の中で、福島県に引き続き宮城県に到着し、宮城県知事に手渡された。
- 地元宮城県出身のアスリート委員である菅原智恵子氏がステージに登壇し、地元の子供たちへ東京2020大会へのメッセージを送ったほか、地元の子どもたちによる復興ソングの合唱も行われ、オリンピック、パラリンピアンと子どもたちとの交流も図られた。

実施日時：2017年2月9日（木）

実施場所：宮城県庁 1F 県民ロビー

参加したアスリート委員：菅原 智恵子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、12月10日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都稲城市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 田口委員コメント

「フラッグを稲城市の皆さんに無事に届けられてホッとしている。私もリオ2016大会に行ったが、すごく盛り上がっていた。この興奮が2020年に東京で見られると思うととても楽しみであり、皆さんもこのフラッグを見て2020年の東京大会に思いを馳せていただきたい。」

実施日時：2016年12月10日（土）

実施場所：稲城市総合体育館総合ロビー1階

参加したアスリート委員：田口 亜希 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、1月30日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都渋谷区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 廣瀬委員コメント

「日本からの応援があったからこそリオデジャネイロでは銀メダルという結果につなげることが出来ました。東京2020大会もオリンピックもパラリンピックもぜひ一緒に盛り上げていきましょう。」

実施日時：2017年1月30日（日）

実施場所：渋谷区シニア・いきいきケアコミュニティ・美竹の丘

参加したアスリート委員：廣瀬 隆喜 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー <都内区市町村>

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、2月11日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都板橋区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 萩原委員コメント

「2020年はオリンピックを直に生で見られる凄く良い機会なので、ボランティアでも選手を応援するだけでも良いので、是非みんなで盛り上げていきましょう！」

実施日時：2017年2月11日（土）

実施場所：板橋区小豆沢体育館

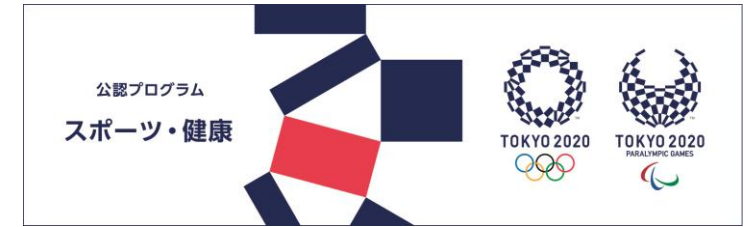
参加したアスリート委員：萩原 美樹子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

アスリート・スペシャル・トークセッション2017 「スポーツの力でみんなが輝く社会へ」



- 今月25日(土)、昨年に引き続き、一般財団法人東京マラソン財団の協力を得て、東京マラソンEXPO2017の会場において、高橋委員長とリオパラリンピック銅メダリスト芦田創選手によるステージイベントを開催する。
- 芦田選手にリオ大会での感想を伺いながら、リオ大会の感動を振り返り、一人でも多くの方にオリンピック・パラリンピックに興味を持ってもらい、東京2020大会の機運醸成につなげていく。
- 今回より、組織委員会主催の東京2020参画プログラムとして実施する。

実施日程：2017年2月25日（土）

実施場所：東京ビッグサイト（東京マラソンEXPO2017会場内）



一番左が芦田選手

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

アスリート・スペシャル・トークセッション2016
「走り出そう、東京マラソンから東京2020大会へ」

- 昨年2月27日(年)、一般財団法人東京マラソン財団の協力を得て、東京マラソンEXPO2016の会場において、高橋委員長をはじめとするアスリート委員有志によるステージイベントを開催した。
- リオ大会に向けたオリンピック・パラリンピックの競技の魅力や10周年を迎えた東京マラソンについて、トークセッションを行い、多くの来場者があった。

実施日程：2016年2月27日(土)

実施場所：東京ビッグサイト(東京マラソンEXPO2016会場内)

参加したアスリート委員：高橋委員長、河合副委員長

田口委員、廣瀬委員、三浦委員



2. WG 2の活動について

<所管事項>

○アスリート視点での大会運営を実現

ミッション：アスリート向けの各種サービスについて、アスリートファーストの視点に基づいて、適正なサービスレベルが設定されるよう支援する。

<主な取組内容>

① リオデジャネイロ大会でのアンケート調査の実施

リオ2016大会におけるアスリート向けの各種サービスについて、同大会に出場した日本代表選手にアンケート調査を実施

② 大会準備におけるアスリートの意見の反映

上記①のアンケート調査から得られたアスリートの経験や知見をまとめ、東京2020大会の運営計画を策定している組織委員会の実務担当者に対してフィードバックを実施



アスリート向けの各種サービスを提供する部門との連携を強化し、支援体制を構築

WG 2 の取組状況 – リオ大会でのアンケート調査の実施 –

調查目的

東京2020大会でアスリート向けの各種サービスがアスリートの意見を踏まえて適切に提供できるよう支援するため、アスリート委員会が作成した質問票に基づいて、リオ大会に出場した日本代表選手に対するアンケート調査を実施

調査概要

対象：日本代表選手 オリンピック ： 3 3 8名
 パラリンピック： 1 3 2名

方法：Webアンケートによる選択式回答
※パラリンピックでは紙媒体も併用

期間：リオデジャネイロ大会期間中

回答：オリンピック　： 2 1 4 件
パラリンピック： 1 2 8 件

リオ大会(オリンピック)選手サービスについて

空港からの選手村到着まで

1. 空港から選手村への移動はスムーズでしたか

☐ とてもよい

☐ よい

☐ 普通

☐ 悪い

☐ とても悪い

2. 空港から選手村まで時間はどれくらいかりましたか

☐ 18時間以内

☐ 18時間から18時間半

☐ 18時間半から28時間

☐ 28時間以上

WG 2 の取組状況 – リオ大会でのアンケート調査の実施 –

調査内容



空港、輸送、選手村、食事、アクセシビリティ、スタッフ、などのアスリート向けの各種サービスについて調査

リオデジャネイロ大会でのアンケート調査の結果概要

アンケートでは、食事、選手村、輸送、スタッフ、東京2020大会に対する期待などに関して、意見、コメントが多く寄せられた（以下、取りまとめ例（抜粋））。

◆ 食事

アスリートの食を「支える」サービスであり、食事の質や品目、また、食堂内でのメニュー表示や食事の配置場所の明確さなど、一定レベル以上のクオリティと適切なオペレーションが求められている。



◆ 選手村

アスリートが競技に集中できるよう、選手村での生活そのものがアスリートにストレス（住環境の不便さなど）を与えないようにすることが重要である。



◆ 輸送

特に、競技に不可欠な道具・用具の輸送の遅れは避けなければならない、また、選手のコンディション管理を考慮してバス内の空調管理や運転の仕方などにも配慮が必要である。



リオデジャネイロ大会でのアンケート調査の結果概要

◆ スタッフ

親切で丁寧な対応は万国共通で好まれる。一方でスタッフの知識不足や訓練不足、モラル欠如は苦情につながりやすく、ボランティアを含むスタッフ教育の重要性が伺える。

◆ 競技会場・練習会場

選手が競技に集中できる環境をどう整えるかが重要である。

◆ その他（セキュリティ・テクノロジーなど）

テクノロジーの進歩に伴い、セキュリティの質の向上などの効果を感じている選手も見られる。

リオデジャネイロ大会でのアンケート調査の結果概要

◆ アクセシビリティ

パラリンピック競技大会に参加する選手の障がい特性を考慮して、誰もが使いやすく不便を感じさせないアクセシビリティへの工夫や配慮が望まれる。



◆ 空港

手続きの円滑さや荷物受け取りのスムーズさが重視されている。



◆ 東京2020大会に向けての期待

アスリートとしての決意や競技のサポート環境充実への期待、日本の美徳である“おもてなし”や“もったいない”精神が発揮できる大会となることが期待されている。



大会準備におけるアスリートの意見の反映に向けての取組みを開始

WG2の取り組み状況

リオ大会でのアンケート調査の結果を、各部門の運営計画を策定している実務担当者が集まる計画ワンチーム（通称：POT）会議でフィードバック。各FAと情報共有を図り、アスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスで、今後、どのように連携していくのかについて意見交換を行った。

【第1回】 実施日時：2016年11月10日（金）13時30分～16時30分
出席者：池田 信太郎（北京・ロンドン五輪代表：バドミントン）
谷本 歩実（アテネ・北京五輪代表：柔道）
参加人数：58名



【第1回写真】

【第2回】 実施日時：2016年12月22日（金）13時30分～16時30分
出席者：池田 信太郎（北京・ロンドン五輪代表：バドミントン）
谷本 歩実（アテネ・北京五輪代表：柔道）
田口 亜希（アテネ・北京・ロンドンパラ代表：射撃）
参加人数：57名



【第2回写真】

また、食事や選手村などのサービスを担当する部門と個別に具体的な相談・連携を進めている。



アスリートがサービスレベルの設定プロセスに関与・協力



アクション&レガシープラン2017及び 東京2020参画プログラムの状況・今後の展開

アクション&レガシープラン2017について

(1) 方向性

① 本文

- 原則として抜本改正は予定せず。
- 一方で、足許の環境を踏まえ新たな視点、重点ポイントなどを検討。

② 付表

- 東京2020参画プログラムの認証案件一覧
- 特筆すべき内容のイベント・事業については詳細資料を添付

③ 2017年に向けての行動指針

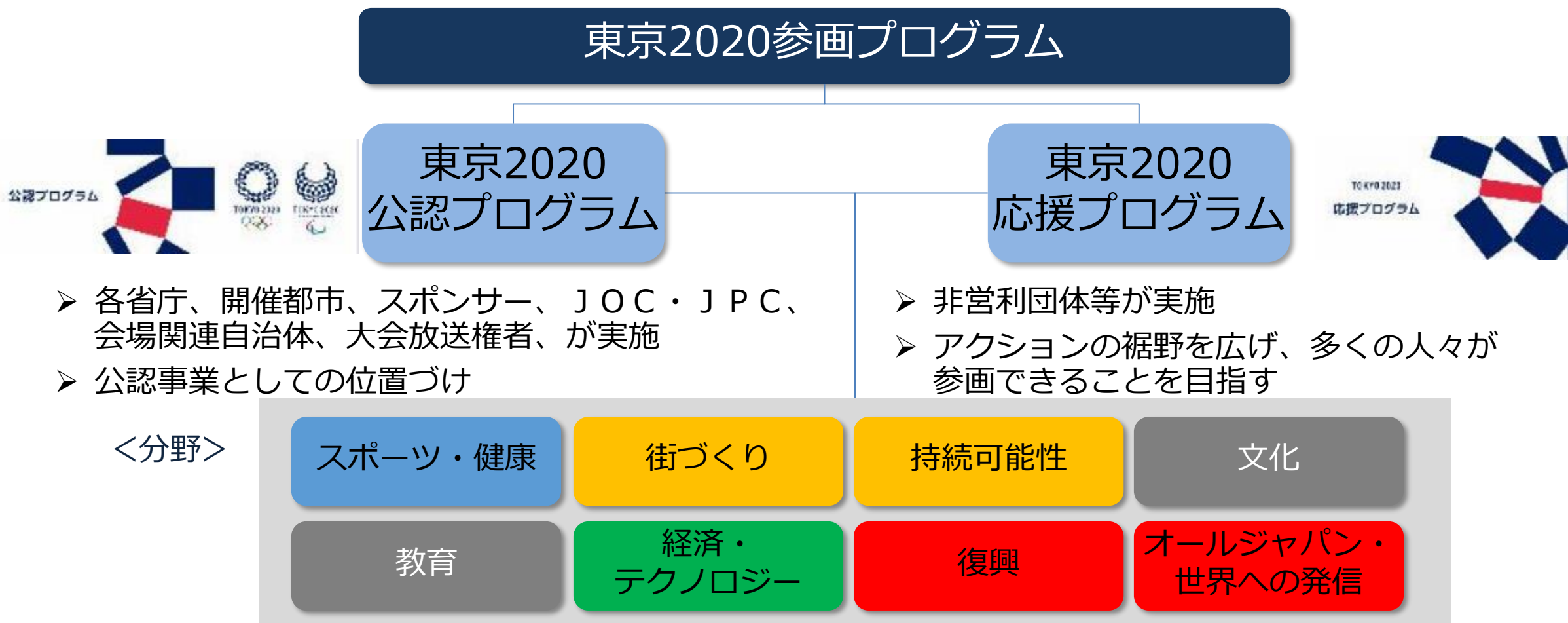
- 東京2020参画プログラムの今後の方針について他
- 2020フェスティバルについて

(2) 今後のスケジュール

時期	内容	詳細等
2017年6月～7月頃（予定）	専門委員会	• A&Lプラン2017の更新 • 参画プログラムの現状報告
2017年夏頃	理事会	• A&Lプラン2017の公表

東京2020参画プログラムの枠組み

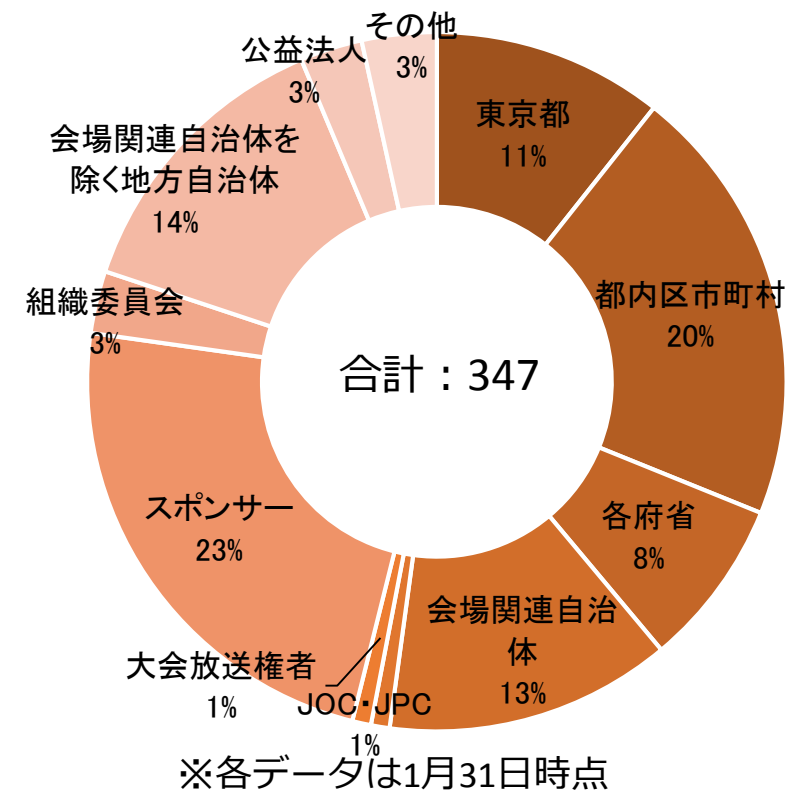
アクション&レガシープランのコンセプトに基づいたイベント・事業が実施できる仕組み。様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら大会に向けた参画・機運醸成を図るもの。



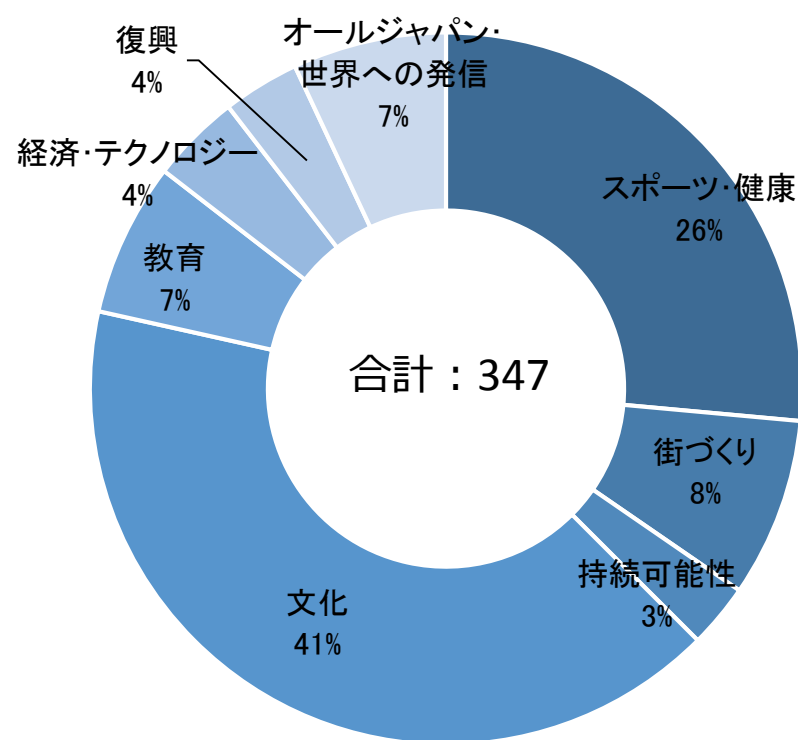
東京2020参画プログラムの現状

- ▶ 東京都及び都内区市町村と会場関連自治体で全体の約4割。分野別ではスポーツ・健康と文化のアクションで全体の7割程度
- ▶ 教育プログラム（学校編）は、東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校として、その教育事業を認証するもの
 - －平成28年10月～平成29年3月までの対象校は、東京都及び競技会場のある道県に所在する学校及び文部科学省が推薦する学校が実施する事業

主体別認証アクション数



分野別認証アクション数



都道府県別学校認証数

都道府県	学校数
東京都	2,165
京都府	49
宮城県	23
長崎県	22
福岡県	13
熊本県	11
石川県	4
岩手県	1
埼玉県	1
千葉県	1
神奈川県	1
合計	2,291

事例紹介①

スポーツ
健康

千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！ フェンシング・車いすフェンシング体験イベント



日時：2016年11月27日(日)
場所：ららぽーと柏の葉
主催：千葉県庁

- 千葉県内開催競技であるフェンシングや車いすフェンシングに対して県民が触れる機会を提供することによって、東京2020大会に向け機運を高める。
- フェンシングのオリンピック、車いすフェンシングのパラリンピアンを招聘し、競技の魅力語ってもらったり、デモンストレーションの実演を参加者に見せたりすることで、競技に対する興味・関心を高める。

事例紹介②

スポーツ
健康

さべかい・ともいきシンポジウム ～障害者スポーツとそのあくなき挑戦者～

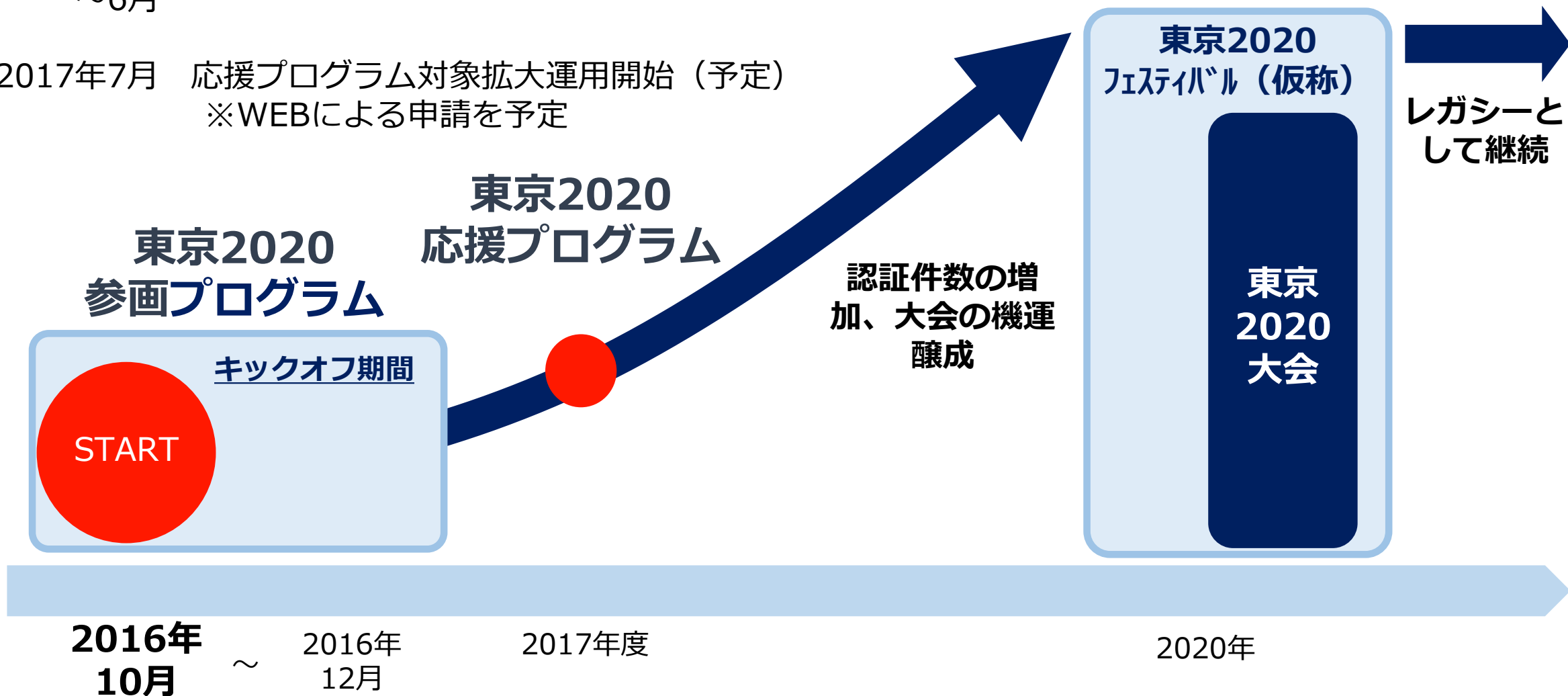


日時：2016年12月3日(土)
場所：サンポートホール高松
主催：香川県庁

- リオ大会で一段と関心が高まり、今後、東京大会に向けて、さらに盛り上がり期待される障害者スポーツをテーマとしたシンポジウムの開催。
- スポーツを通じて障がい者の社会参加が促進され、障害を理由とした差別の解消を推進し、共生社会の実現を目指す。

プログラムの展開スケジュール

- 2017年4月～6月 認証WEBシステム構築、関係主体への説明会等開催
- 2017年7月 応援プログラム対象拡大運用開始（予定）
※WEBによる申請を予定



応援プログラムの対象となる非営利団体（2017年度対象拡大分）

- 応援プログラムは、アクションの裾野を広げ、できる限り多くの団体・人々が参画できることを目指すもの
- 営利を目的としない団体に対して対象拡大予定（以下、検討中）

公共関連	市町村、国・自治体の外郭団体	経済関連	商工会議所、商工会
地域関連	自治会・町内会等、商店街	国際関連	国際機関、大使館
スポーツ 関連	国内競技団体、体育協会	非営利法人	公益財団・社団、認定NPO、社会福祉法人 一般財団・社団、NPO
学校関連	連携大学、その他の大学・大学院・ 短大、高専、専修・各種学校	その他	協同組合、任意団体等

注1：2017年7月から上記の団体に対象拡大する予定だが、外郭団体、連携大学は2017年4月から対象とする予定
（ただし、外郭団体については、既に所管団体が認証対象となっている外郭団体のみを対象とする）

注2：外郭団体は所管団体による主体登録を予定。自治会・町内会等、商店街は所在自治体による主体登録を予定

注3：一般財団・社団、NPO、協同組合、任意団体等は公的団体による確認等を要件とする予定

注4：学校は国公立および私立（学校法人、準学校法人）を対象とする予定

【参考】東京2020参画プログラムの対象団体（現状）

東京2020公認プログラム 〈東京2020公認マーク付与〉

- 政府（各省庁）
- 開催都市（東京都・区市町村）
- スポンサー
- JOC、JPC
- 会場関連自治体（道県・市町）
- 大会放送権者

東京2020応援プログラム 〈東京2020応援マーク付与〉

- スポーツ関連
 - ・ 日本障がい者スポーツ協会
 - ・ 日本スポーツ振興センター
 - ・ 日本体育協会
 - ・ 日本アンチ・ドーピング機構
 - ・ 日本レクリエーション協会
- 文化関連
 - ・ 日本芸術文化振興会
 - ・ 国際交流基金
 - ・ 東京都歴史文化財団
 - ・ 日本芸能実演家団体協議会
- 経済関連
 - ・ 経済界協議会（構成団体※含む）
- 地域関連
 - ・ 会場関連自治体以外の府県、政令市

※構成団体：日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、東京商工会議所

東京2020フェスティバル（仮称）について

- 東京2020参画プログラム（東京2020文化オリンピック）の集大成として、東京2020大会の直前から「東京2020フェスティバル（仮称）」の実施を検討
- まずは、文化・芸術の分野を中心に、組織委員会が主導し、政府、東京都、全国の自治体、スポンサー企業、文化芸術団体など、多くのステークホルダーへ参画を呼びかける
- これを踏まえ、参画プログラムの各分野においても展開を検討予定

2017年

2020年4月頃

参画プログラムによる大会に向けた機運醸成



東京2020フェスティバルの展開



- ・ 大会の盛り上げを最大化
- ・ 歴史に残るプロジェクト
- ・ 様々なステークホルダーの参画
- ・ 国内外への発信



資料 5

開閉会式の検討について

～開閉会式の概要について～

1 オリンピック・パラリンピック開閉会式とは

参加者数、観客数、視聴者数、テレビ放映国数、予算のどれにおいても世界最大規模のセレモニー。
特にオリンピック開会式は、メディアを通じて、世界中に開催都市の国家、国民、文化などをプレゼンテーションする場であり、大会の成功を表す指標とも言われる。

- (大会エンブレムと並んで)大会ビジョンを最も象徴的に可視化したもの
- オリンピック・パラリンピック大会と開催都市における最初のプレゼンテーション
- そして、そこに始まるオリンピック・パラリンピック大会の成否の予感を左右する指標

2 IOCが定めている開閉会式の基本的な流れ

IOC/IPCが規定するプロトコル(必須要件)と開催都市に委ねられた芸術パートの連続で構成される。

例：カウントダウン→プロトコル→芸術パート→プロトコル→芸術パート→フィナーレ

開会式プロトコル項目

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------|
| 1. 国家元首入場 | 6. IOC会長スピーチ | 11. 審判宣誓 |
| 2. 国旗掲揚、国歌斉唱 | 7. 開会宣言 | 12. コーチ宣誓 |
| 3. 選手入場 | 8. オリンピック旗掲揚 | 13. 聖火点灯 |
| 4. 放鳩式 | 9. オリンピックアンセム演奏 | |
| 5. 組織委員会会長スピーチ | 10. 選手宣誓 | |

3 過去大会の開会式芸術パートの特色

- ・1984年ロサンゼルス大会
⇒開会式のショーアップ化
- ・2000年シドニー大会
⇒リオ大会まで続いている、国（地域）の創生や歴史のアピールが始まる。
- ・2012ロンドン大会
⇒産業革命前後のイギリスを表し、産業革命によって国が発展していった様子を表現。
- ・2016リオ大会
⇒ブラジルの美しい自然や民族の多様性などを温かみのある視点で表現。

4 今後の流れについて

式典委員会の設立【2017年春頃】



基本方針の検討【2017年春頃～2017年末頃】



制作体制の決定

演出検討に関わる者の選定などの制作体制の決定



制作・準備



大会本番

5 本日よりご意見いただきたい事

■ 過去大会にて表現されてきたこと

オリンピック・ムーブメントの目的

オリンピック・ムーブメントも伴うことなく、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって相互に理解しあうオリンピック精神に基づいて行なわれるスポーツを通して青少年を教育することにより、平和でよりよい世界をつくることに貢献することにある。

パラリンピックの価値

勇気、強い意志、インスピレーション、公平

各大会の特色例

ロサンゼルス大会：ショーアップ、テクノロジー

シドニー大会：国（地域）の創生や先住民族などの歴史を表現

ロンドン大会：産業革命によって国が発展していった様子を表現。

リオ大会：環境の重要性や民族の多様性などを温かみのある視点で表現。

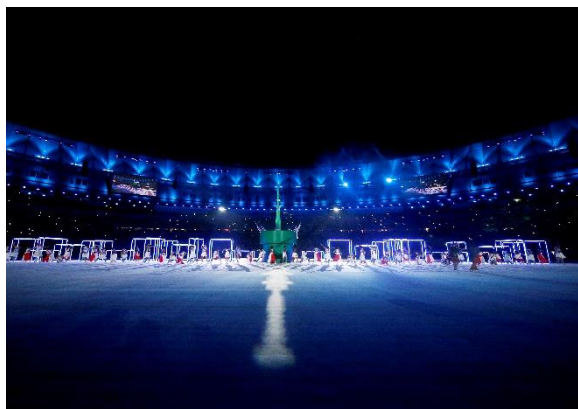
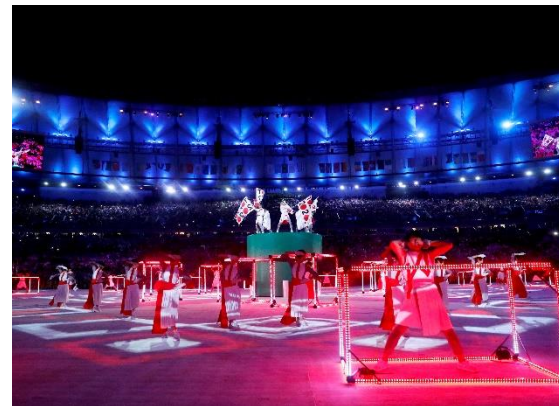
■ 東京2020大会の開閉会式では何を表現したらよいか？

東京2020大会ビジョン（一部抜粋）

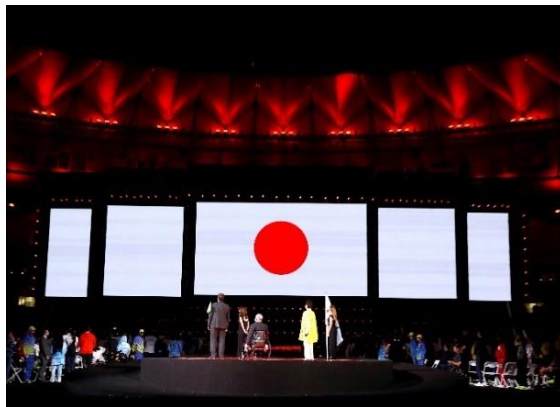
スポーツには世界と未来を変える力がある。

2020年の東京大会は、「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会となる。

リオ2016オリンピック閉会式 旗引継ぎ式



リオ2016パラリンピック閉会式 旗引継ぎ式





「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」について

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクトについて

大会に向けた盛り上げ
国民の大会への参画
(エンゲージメント)

都市鉱山からつくる！
みんなのメダル
プロジェクト
4月受付スタート!!



事業協力者2社、
(NTTドコモ／日本
環境衛生センター)、
東京都・環境省と
連携し、小型家電の
回収を実施。



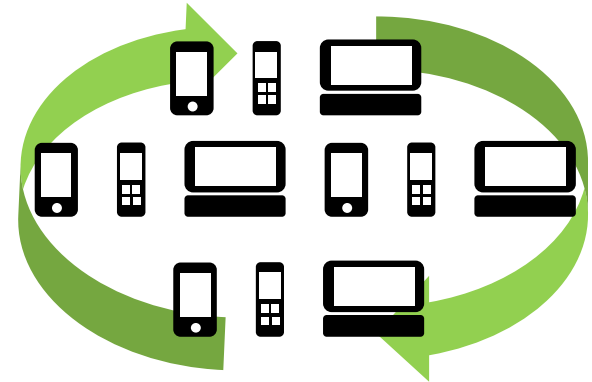
皆の想いが集まって

東京2020大会時に
メダリストの元へ



メダル製作プロセスに
新たな価値

大会後に残るレガシー
環境意識の向上
持続可能な社会の実現



大会をきっかけに
資源をより活かした社会へ

メダル製作に関して東京2020が“初めて”となる3つのポイント

- 参画 : 国民が参加してメダル製作を行うプロジェクトを実施
- 環境 : メダル製造に必要な全ての金属量を都市鉱山から賄う
- テクノロジー : “金”の調達においては、リサイクル率100%を目指す

- 全国からの幅広い参画を実現
- 確実な原材料供給と高いリサイクル技術
- 低コストでの調達

携帯電話事業者を通じた回収

事業協力者（代表社） 株式会社 NTTドコモ

全国の皆さまの使用済み携帯電話等を、2001年以来取り組んできたモバイル・リサイクル・ネットワークの枠組み、及び廃棄物処理法の広域認定等を受けた同社のリサイクルプロセスを活用し、全国約2,400のドコモショップ等を通じて回収する。



自治体を通じた回収

事業協力者（代表社） 一般財団法人 日本環境衛生センター

家庭に眠っている小型家電を、全国の認定事業者（2/1時点33社）の協力を得つつ、全国の自治体等を通じて、小型家電リサイクル法に基づき回収する。

※回収実施自治体・回収品目は今後調整



An Olympic medal is one of the most coveted items in existence. People spend decades, often agonizing ones, working to obtain one. The life stories of so many are defined by the pursuit of these metal medallions, and those same stories are what inspire and bring millions of us together.

And now, thanks to the Tokyo 2020 Olympic Medal Project not only do the athletes inspire with their stories, but each medal itself has a story of its own! The best part is that each citizen has a chance to contribute to the story, to raise awareness about a sustainable future and to make a unique contribution. And, most excitingly, they have a chance to be part of the Olympic journey.

The weight of a medal around your neck is always a good weight. And when an athlete at Tokyo wins a medal, the weight of it will not be from the gold, silver, or bronze; it will be the weight of a nation. The awesomeness of this project makes me want to come out of retirement and compete for one.

I have always been a fan of people who do things differently; of those who try to move the needle in a positive way. I am a fan of Tokyo 2020.

Ashton Eaton

陸上競技10種 メダリスト アシュトン・イートンさん(アメリカ)

ロンドン2012大会 金メダル、リオデジャネイロ2016大会 金メダル

オリンピックのメダルは、この世に存在する物の中で人々に最も切望されるものの一つです。人々は長きにわたり、しばしば苦勞しながら、これを手にするために懸命に努力します。多くのアスリートにとって、オリンピックのメダルを追求することは人生そのものであり、またそれぞれの人生のストーリーがアスリート同士を奮い立たせ、結束させもします。

そして今、東京2020メダルプロジェクトによって、アスリートが感動のストーリーを伝えるだけでなく、一つ一つのメダルそのものにストーリーが生まれるのです！このプロジェクトの一番素晴らしいところは、国民のみなさんがメダルのストーリーの一部になる機会を得られ、持続可能な未来についての認識を高め、そして新しい方法で貢献をすることができることです。誰もが「オリンピックの旅」に参加できるチャンスがあるということは、非常にエキサイティングなことです。

(後略)

体操競技 メダリスト 内村航平選手

北京2008大会 団体総合銀／個人総合銀

ロンドン2012大会 団体総合銀／個人総合金／ゆか銀

リオデジャネイロ2016大会 団体総合金／個人総合金

今では便利にスマートフォンやパソコンを使っていますが、進歩する度に使えなくなって廃棄するだけではもったいないと思います。体操の技術も昔からの選手たちの取り組みがあって今につながっています。

今回の取り組みは、これまで利用してきた価値や思いをメダルに込めるわけですし、将来に大切なメッセージを伝えるプロジェクトになると思います。

ウィルチェアーラグビー メダリスト 池崎大輔選手

リオデジャネイロ2016大会 ウィルチェアーラグビー銅

パラアスリートはパラリンピックの頂点を目指し、また、メダル獲得に向けての日々を過ごしています。僕らのメダルは、たくさんの人の支えや応援と自分以外の思いと共に戦って獲得できたメダルだと思っています。だからこそ価値があり思い思いのこもった特別な価値のある物です。応援してくれた方々へメダルの報告をして、首にかけた時の笑顔や、普及活動でメダルを目にした子供達の喜ぶ姿を見た時は、メダルを取ったという実感がわきます。

そして、メダルは夢や希望とパラスポーツの未来に繋がるものです。

今回のプロジェクトによってメダルが完成すれば、今まで以上に思いが入ったものになると思います。2020東京オリンピック・パラリンピックのメダルは日本国民みんなで作り上げるという素晴らしい取り組みだと思いますし、メダルを目指す為のモチベーションにも繋がります。

- ◆ 2月1日の東京2020理事会後に記者会見を実施。
- ◆ 国内だけでなく海外でも、ロイター、BBC、CNN、ワシントンポストなど20か国の主要メディア120以上で、アスリートの声と共に好意的に報道された。



Tokyo 2020 Olympics: Medals to be made from mobile phones

1 February 2017 | Olympics

Share



Organisers hope to gather eight tonnes of metal to create the two tonnes of gold, silver and bronze required for medals

Olympic and Paralympic medals for the Tokyo 2020 Games will be made from recycled mobile phones.

The Japanese public will be asked to donate old phones and small appliances to gather two tonnes of gold, silver and bronze for the 5,000 medals.

The project hopes to promote sustainability and reduce costs.

"A project that allows the people of Japan to take part in creating the medals is really good," said Tokyo 2020 sports director Koji Murofushi.

"There's a limit on the resources of our earth, so recycling these things will make us think about the environment."

Collection boxes will be placed in local offices and telecoms stores from April and will remain there until the metal required has been collected.

Members of Japan's Olympic organising committee tabled the idea to government officials and companies in 2016.

Olympic host cities have traditionally obtained the metal from mining firms.

But Japan, which lacks its own mineral resources, is keen to take the theme of a sustainable future a step further.

SPORTS NEWS | Wed Feb 1, 2017 | 4:30pm IST

Tokyo medals to be made from recycled donated metal



A woman is silhouetted against a monitor showing Tokyo 2020 Olympics and Paralympics emblems during the Olympic and Paralympic flag-raising ceremony at Tokyo Metropolitan Government Building in Tokyo, Japan, September 21, 2016. REUTERS/Toru Hanai/Flia Photo

By Elaine Lies | TOKYO

The medals for the 2020 Tokyo Olympics will be forged from recycled metal from old mobile phones and appliances donated by the general public to give them a sense of direct involvement in the Games, organisers said on Wednesday.

The move is also part of an effort to promote sustainability and save costs after the budget for the event ballooned to more than 3 trillion yen (\$26.5 billion) at one point, though organisers reduced that sum to \$16.8 billion late last year.

The Tokyo 2020 organising committee hopes to gather as much as eight tonnes of metal -- 40 kg of gold, 2,920 kg of silver and 2,994 kg of bronze -- from outdated mobile phones and small household appliances donated by people across Japan.

This effort, the first of its kind for the Olympics, will ultimately result in two tonnes of metal, enough to make all 5,000 Olympic and Paralympic medals.

"There's quite a limit on the resources of our earth, and so recycling these things and giving them a new use will make us all think about the environment," Tokyo 2020 Sports Director Koji Murofushi told a news conference.

"Having a project that allows all the people of Japan to take part in creating the medals that will be hung around athletes' necks is really good," the 2004 Athens Olympics hammer throw gold medalist added.

"It will become quite a big memory for children, who think that something they gave may have been part of creating those medals."

From April, collection boxes will be installed in local offices and the stores of telecoms firm NTT DoCoMo Inc, which will partner with environmental firm Japan Environmental Sanitation Center for the project.



選手村の会場コンセプト計画及びマスタープランVer.1 について（案）

概要

○会場コンセプト計画 = 設計計画

現時点での施設計画や動線に関する
コンセプトをまとめた計画
(提出は1回)

○マスタープラン(Ver1-3) = 運営計画

選手村運営の主要目標を達成するため
に必要な施設・設備・サービス等に関する
基本計画(Ver3まで更新予定)

ミッション

- 選手がベストを目指し、集中力を高めていけるよう、選手団を温かく迎え入れ、機能的な選手村を提供する。
- 選手団が、大会時及び大会後も続く社会的な交流を深められるよう、リラックスできる雰囲気とプログラムを提供する。

目標・ 成功要素

居住

安全性、快適性、
アクセシビリティ

レガシー

大会後の施設有効活用

パラリンピック

パラリンピック競技大会へ
のスムーズな移行

文化

多様な日本文化、おもてなし
にふれる機会

ダイバーシティ

多様性・調和に配慮

利便性・
効率性

安心・
安全

アクセシビリティ

周辺・
居住環境

持続可能性

これら 5 つの選手村の機能をより具体化し、選手村に「**居住ゾーン**」、
「**ビレッジプラザ**」、「**運営ゾーン**」に分けて配置を計画

居住ゾーン

宿泊棟／ダイニングホール／NOC/NPC サービスセンター
ポリクリニック／スポーツコンプレックス／レクリエーション

ビレッジプラザ

ビレッジプラザ

運営ゾーン

ウェルカムセンター／設備サービスセンター
NOC/NPCパーキング／メインエントランス／輸送モール